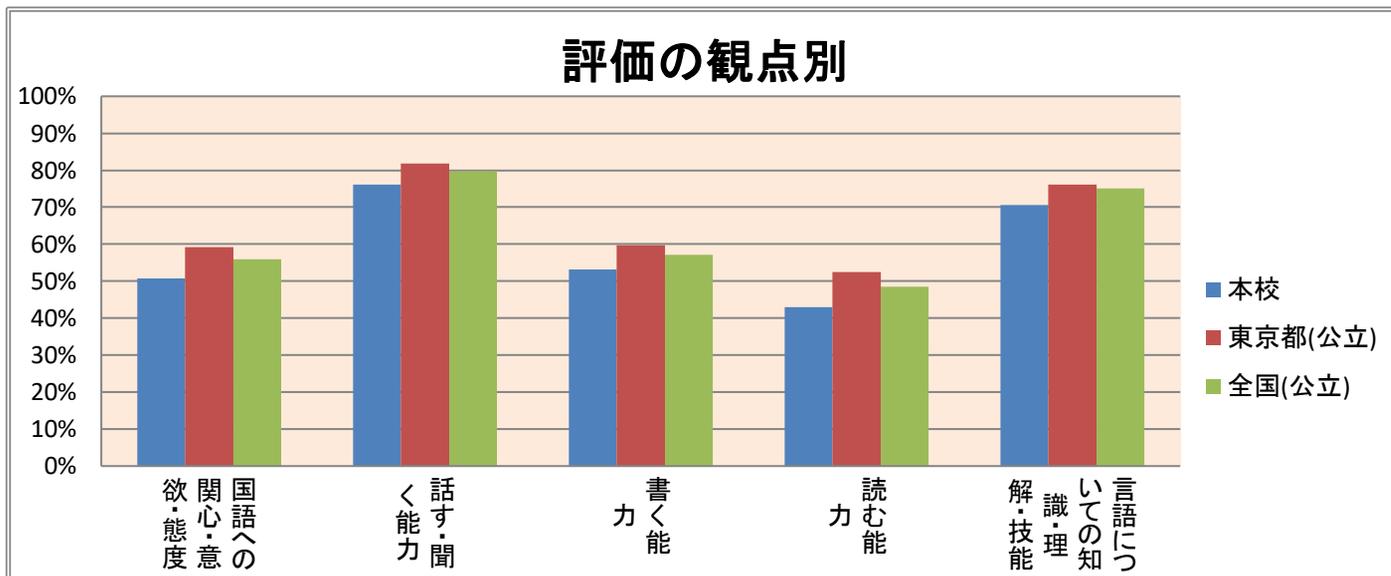
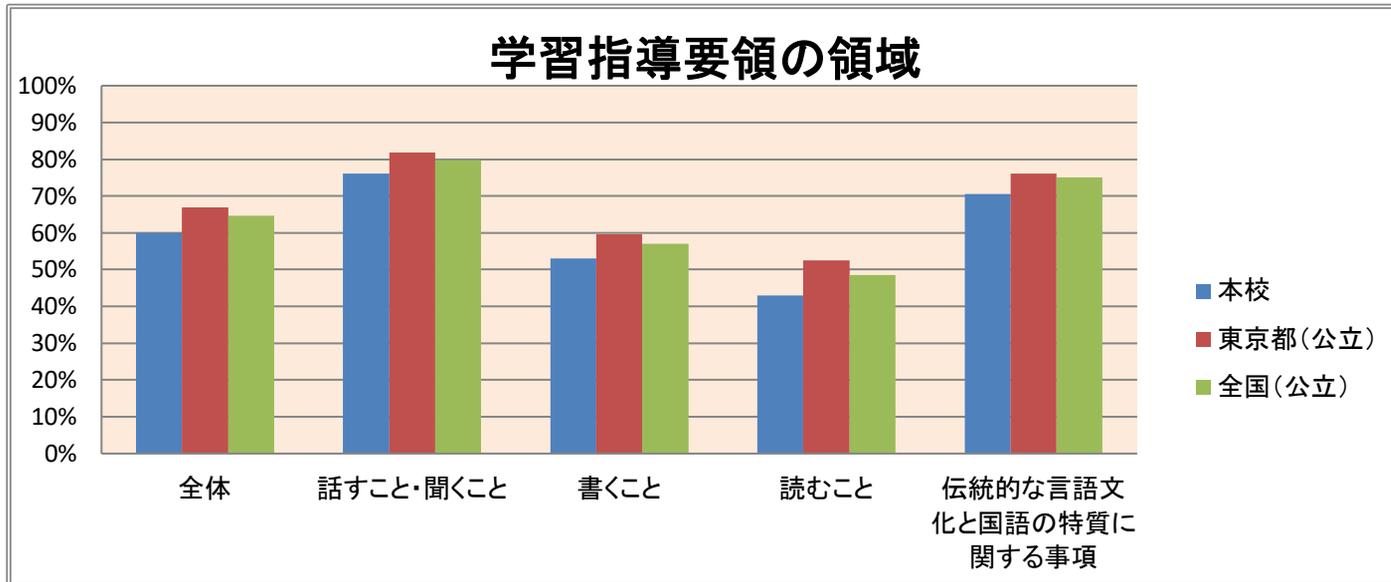


国語（令和3年度 全国学力・学習状況調査）

江戸川区立上一色中学校

1. 分類ごとの平均正答率



1. 学習指導要領の範囲における正答率の分析・考察

【全体】

- ・東京都の平均正答率と比べると「読むこと」で大きく下回り、全体で7%低くなっている。
- ・全国の平均正答率と比べるとすべての項目で3～5%下回っている。

【話すこと・聞くこと】

話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える力が弱い。そのため、話し合い活動を行うときに役割を決めたり、自分の考えを相手に伝えたりすることを重視していく。

【書くこと】

書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く力が弱い。普段のノートづくりや作文を書くときから、誤字脱字や主語述語の関係等、注意しながら書くように指導していく。

【読むこと】

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができない生徒が多い。初読の感想を書かせたり、1単元終わる毎に自分の意見をまとめたりする作業を行なう。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

相手や場に応じて敬語を適切に使うことができない生徒が多い。普段の学校生活の中での会話も含め、改善し

2. 評価の観点別から見た課題

【国語への関心・意欲・態度】

文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができない生徒が多い。話し合いの時間を設け、相手の話を聞いて自分の考えを深化させるようにする。

【話す・聞く能力】

話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができない生徒が多い。そのため、話し合い活動を行うときに役割を決めたり、自分の考えを相手に伝えたりすることを重視していく。

【書く能力】

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く力が弱い。文法を復習し、文の組み立てに誤りがなにか生徒自身で確認させる作業を取り入れていく。

【読む能力】

文脈の中における語句の意味を理解する能力が低い。語句の意味調べや文中における語句の意味を学習する活動を取り入れていく。

【言語についての知識・理解・技能】

相手や場に応じて敬語を適切に使うことができない生徒が多い。また、多様な語句の知識・理解が乏しい。

3. 指導改善のポイント(上記のことをふまえて、具体的に記述する)

- ・話し合いの時間を設け、相手の話を聞いて自分の考えを深化させるようにする。
- ・文章を書く際に、書き手と読み手の両方の立場から検討し、書かせるようにする。
- ・登場人物の言動を表す描写に着目し、他の叙述や場面の展開を根拠としながら、言動の意味を考える学習活動を行う。
- ・語句の意味調べの回数を増やし、授業中にもことわざや熟語の使用例を考えさせるようにする。
- ・家庭学習として行っている漢字の学習を引き続き続けていく。
- ・学校生活の中で目上の人には正しく敬語を使うように指導する。